

そんな和光市だからこそ、親たちの切実な思いを背景として、2000年5月に「わこう子育てネットワーク(愛称:わこわこネット)」が発足。その後、多くの方々の協力を得て活動内容を充実し、2004年1月にはNPOの認証を取得しました。

わこわこネットは、子育て中のおかあさんたちをスタッフおよび利用者として、「子育てサロン」「各種講座・学習会」「テーマ別交流会」「通信誌・ニュースレター発行」「ホームページ運営」「イベント開催」などの活動を展開しています。

※詳しくは、当法人ホームページをご覧ください。

<http://homepage1.nifty.com/hini2/>

### 3. わこわこネットにおける父親参加の状況

この種の団体は全国各地にあり、わこわこネットにとくに際立った特徴があるとも思えないのですが、最近、活動への父親の参加が盛んだ、というご指摘を外部の方から受けることが多いです。

男性を巻き込んだ活動が盛んな子育て支援NPOのある土地が、男性の子育て参加の盛んな土地であるとは必ずしもいえませんが、もしかすると、ご参考にさせていただける点が多少なりともあるかもしれないと思い、われわれ「パパ組」の活動を少しご紹介したいと思います。

#### (1) バーベキュー大会

設立当初から、理事やスタッフ等関係者の交流を深めるためのバーベキューを年に1回ずつ開催してきており、参加者の幅を広げつつ、2006年までに第7回を数えました。毎回、おとうさんが幹事を務め、当日の調理や力仕事の多くを十数名のおとうさんが担っています(もちろんおかあさんたちもいろんな形でサポートしてくれています)。

メニュー決定、開催告知・PR、当日のかまどでの火起こしや調理、開催内容のレポートなど、担当のおとうさんが自主的に考え実行しています。その過程で、スーパーの精肉部門に勤めるおとうさんや、ダッチオープン料理が得意なおとうさんが腕を振るったりというように、それぞれの得意分野が明らかになってきました。

※詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapadmz/bbq.htm>

#### (2) 一日限定冒険遊び場

和光市周辺6市の地域子育てネットワーク推進大会の一環として、2005年2月に、和光市総合児童センターに隣接する広場にて、一日限定の「冒険遊び場(プレイパーク)」を開催しました。

立ち木からロープをぶら下げたブランコや即席ハンモック、泥だんごづくり、べっこうあめ、木工、かまどでの火遊び、段ボール迷路など、日頃公園などではできないような遊びの数々を子どもたちといっしょに楽しみました。

準備はおかあさん方が中心でしたが、当日は男性の参加も多く、体当たりで子どもたちと遊ぶたくさんのおとうさんたちが活躍しました。

### (3)おとうさんのヤキイモタイム

埼玉県子育て支援課の事業として県内数十箇所で実施したたき火とヤキイモによる親子交流イベントを和光市でも2005年、2006年と2年連続で開催しました。イベントの名前にあるように、子育て中のおとうさん方が準備・開催し、現場ではたき火を囲んでおとうさん方がヤキイモをほおぼり、ベーゴマやけんだまに打ち興じる風景がみられました。

遊びながら、仕事や趣味の話、地域の情報などを交換するおとうさん方が仲間づくりをしました。市内の農家のご好意により、畑の中でも掘りも同時に行い、都市近郊農家とサラリーマン家庭の交流という側面からも意義あるイベントでした。

※詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapadmz/yakiimo.htm>

### (4)わこう市民まつりへの「わこわこ堂」出店(駄菓子と昔遊びの店)

2006年5月には、わこう市民まつりの会場内にわこわこネットのブースを出店。駄菓子と昔遊びの店「わこわこ堂」として、その企画、準備、当日の運営などの大部分をおとうさんたちが行ないました。

駄菓子、飲み物、三角くじ、中古おもちゃなどの販売、けんだま、ベーゴマ、空き缶げた、わりばし鉄砲などを行い、大勢の子どもや大人でにぎわいました。駄菓子販売や昔遊びの現場でそれぞれのおとうさんが工夫をしつつ、設営を進め、お客さんをさばき、お店を成功させました。

※詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapadmz/wako2do.htm>

### (5)和光市つどいの広場事業「おやこ広場もくれんハウス」

わこわこネットでは、2004年5月より市内の1軒家を借りて、親子の居場所「もくれんハウス」を運営しています。これは和光市からの委託事業で、月曜から金曜(月に1度は土曜も営業)まで毎日オープンしています。

通常は小さなお子さんを連れておかあさん方の“たまり場”として好評ですが、月に1度の土曜営業日には、平日に来所できないおとうさんたちの姿が目につきます。初めはぎごちなかったおとうさんたちも、何回か通ってくるうちに徐々に打ち解けてきました。お互いの赤ちゃんを抱き合ったりするなど、子育てに積極的な姿勢をみせるおとうさんの姿もみられるようになりました。

※詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://www15.ocn.ne.jp/~mkrn55/index.html>

#### (6) WakoPapa DMZ(わこわこネット“パパ組”ホームページ)

都内のIT企業に勤めるおとうさんのご好意により、2005年秋にはわこわこネットの活動の中でもとくにおとうさんにかかわりの深い分野を中心に扱うウェブサイトをオープンしました。バーベキュー大会、ヤキイモタイム、「わこわこ堂」などの開催告知と開催当日の写真入りレポートをはじめ、パパの料理コーナー、パパのリレーエッセイ、パパのラーメン食べ歩きレポート、パパが遊びや趣味について語り合う掲示板など、活発な情報発信と情報交換が行なわれています。

※詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapadmz/index.html>

#### 4. わこわこネットにおける父親参加の特徴

##### (1) 妻からの声かけ

よその土地に比べて和光のおとうさんがとくに子育てに熱心だったわけではありません。現在活動に参加しているおとうさんの大部分は、わこわこネットのスタッフや理事の旦那さんたちです。ポイントは妻から夫への働きかけがうまくいったということではないかと思います。

妻が日頃から楽しく参加している活動の様子を伝えているという下地があれば、あるとき夫の背中を「ポン！」と押すことで動き出します。妻がしんどくて、無理やりしている活動では夫を動かすこともできません。

##### (2) 夫本人が「面白そう」「楽しそう」と感じるようなこと

子どもにかかわることが重要であることを理解はしていてもおとうさん本人が楽しそうだと感じないことには始まりません(学校のPTA役員のなり手がいないのはこれが最

大の原因でしょう)。「パパ組」で何かをしようとするときは、まず、おとうさんが楽しそうと感じるかどうかが重要な要素です。子どもや妻を差し置いてでも参加したい、と思えるようなテーマ・内容を提示できるか否か、また、そのように感じてもらえるような提示の仕方を常に心がけています。

そのためには、おとうさんたちの特技や趣味、昔よくやっていた遊びなどについて、日頃からお互いに理解を深めておくことが重要です。

### (3) いっしょに働いて、いっしょに楽しむ

人が楽しいと感じることを考え、それを提供することに熱心になり過ぎると、楽しませる側と楽しませてもらう側という関係が固定化してしまう場合があります。一方は「こんなにしているのに」と思い、一方は「もっとこうしてほしいのに」と、互いに不満が募ってしまいます。

でも、企画、準備、運営、片付けなど、共同作業を行なうことで、ひとりではしんどいこともそれほど苦にならなくなります。おとうさんたちは、いきなり打ち解けておしゃべりしたり、愚痴をこぼしあって共感するというのが女性ほど上手にできません。

それよりも、共同作業をしていくなかでお互いの性格や好みを確認しあっていくほうがうまくいくようです。われわれの活動の多くは、おしゃべりしたり、勉強したりというよりも、いっしょに作業するというものが多いです。

### (4) 無理強いしない

もしかしたら、われわれのこういう活動でも、強力なリーダーシップを発揮できる方がいたほうがよいのかもかもしれませんが、幸か不幸か今のところ「パパ組」にはそういう方はいません。

若干まどろっこしい面もありますが、リーダーがひとりで采配を振るい、仕事を割り振ってしまうと、そこではやらせる側とやらされる側という関係になりがちです。自分が何のためにそれをしているのか、何が楽しいことなのかが見えなくなってしまう。日頃、会社の仕事や家でのいろいろで振り回されているおとうさんたちですので、負担感のない範囲で参加してもらい、というスタンスが重要です。

本人が面白い、やりたい、と思うことであれば、自分で時間をやりくりしながら参加してもらえますし、そういう形であれば、無理をした、負担だった、という思いは薄くなります。

### (5) 「子育て」よりも、ひたすら「遊ぶ」

父親が子育てに楽しく継続的にかかわれるようになるためには、義務感や使命感よりも楽しさのほうがより重要だと思います。楽しそうだから、実際楽しいから、熱心に取り組むわけで、その結果として達成感、満足感が生まれ、妻や仲間たち、そして自分自身への信頼感が生まれ、次へとつながっていきます。

必要に迫られた仕事としての活動ではなく、楽しくわくわくする活動として続けていくためには、「遊び」の要素は不可欠です。

子どもと「遊んであげる」のではなく、大人自身が楽しく遊ぶことをもっと貪欲に追求すべきです。

遊びの中で、親と子、親同士、よその子どもなどと、多様な関係を経験でき、自分の子どもだけを近視眼的にみてイライラしてしまうことからある程度解放されます。

#### 5. 地域で子育てをともに楽しめる仲間を作ろう

われわれ「パパ組」の活動を自分なりに振り返ってみると、こうした方針でやってきた結果として、「そもそも男の子育てとは」などと口先だけで行動しないような人は皆無ですし、きっと今後もそういう方は仲間に入らないでしょう。

こんな活動、なんだか、いつも遊んでばかりじゃないか、と批判されそうです(実際そうなんです)。

でも、子どもをきっかけとしながら地域での一連の活動にかかわっていく中で、おとうさんたちそれぞれの中で着実に変化が現れてきているように感じます。

自分の子どもさえうまく育てばそれでいい、というのではなく、まちがもっと楽しく、住みやすくなっていくためには何が必要だろうか、という意識がおとうさんたちの中に形成されることで、子育てに限定しないもっと大きな成果が現れてくるのではないかと、今後の「パパ組」の展開に期待しています。

わこう子育てネットワーク「わこわコネット」

<http://homepage1.nifty.com/hini2/>

わこわコネット「パパ組」

<http://homepage3.nifty.com/viberge/wakopapadmz/>

# もくれんハウス日記

0才から行ける、親と子のもうひとつのお家「おやこ広場 もくれんハウス」の日記

2008年2月

日 月 火 水 木 金 土  
1 2  
3 4 5 6 7 8 9  
10 11 12 13 14 15 16  
17 18 19 20 21 22 23  
24 25 26 27 28 29  
最近の記事

[2月のお誕生日会](#)

[おっぱい相談](#)

[おはなし会](#)

[小児救急講座、開催しました！](#)

[学生さんがいっぱい！！](#)

[エコキャップふた回収！](#)

[クリスマスリース作り](#)

[コバトンハウス顛末記2](#)

[埼玉県庁コバトンハウス顛末記1](#)

[エコキャップ](#)

[最近のコメント](#)

[埼玉総体関係者 on 埼玉県庁コバトンハウス顛末記1](#)

[お@管理人 on つくってあそぼ ☆千支飾り](#)

[お@管理人 on お外であそぼ](#)

[お@管理人 on はじめまして。](#)

[かずまお on はじめまして。](#)

[キティ on お外であそぼ](#)

[最近のトラックバック](#)

[ちび猫 \(仔猫ねこねこ\)](#)

[バックナンバー](#)

[2008年2月](#)

[2007年12月](#)

[2007年11月](#)

[2007年10月](#)

[2007年9月](#)

[2007年8月](#)

[2007年7月](#)

2007-11-14

## コバトンハウス顛末記2

11月14日は県民の日

埼玉県庁でコバトンハウスを開催しました。布や小物や音楽で雰囲気ガラッと変わった福祉課会議室。いつもおやこ広場やっているんですか？と聞く方も。

中庭では冒険遊び場もやっていたりして、大勢の子連れの皆さんで庁舎内はごった返していました。

そんな中、コバトンハウスも大賑わいでした。こんな感じ



↓の数々。



[プロフィール](#)

[カテゴリ](#)

[お外であそぼ](#)

[コバトンハウス](#)

[ファミリータイム](#)

[ブログ](#)

[プログラム](#)

[子育て情報！](#)

[日記・エッセイ・コラム](#)

[赤ちゃんの日](#)

[このサイトと連携する \(XML\)](#)

[このブログをブログ人「ひと」リストに追加](#)

[メール送信](#)

 Blogzine **ブログ人**  
OCN Powered by TypePad (TM)

2007年6月

2007年5月

2007年3月

2007年2月

2007年1月



会議室とは雰囲気  
の違う居場所に  
ふだん会議で  
使っている職員  
の皆さんも覗い  
てびっくりされて  
いました。



一日限定なのは  
ちょっともったいないくらい沢山の  
方々がいらっしゃいました。

(ま、今日は幼稚園も小学校も  
中学校も休みだしね。特別か。)

面白かったですよ。

もし来年があつたらお越し  
くださいな。

情報提供してくださった  
県内の同じつどいの広場の  
仲間の皆さんありがとうございました。  
感謝します。来場してく  
ださった皆さんもご自身の  
住まいの近くの情報を丹  
念に見ておいででした。

(も)

#### スポンサーリンク - 詳細

DBをアップグレードしたい [www.oracle.co.jp/sap/](http://www.oracle.co.jp/sap/)

Oracle社員に作業をお任せ データ移行させずに簡単・確実な実施

天気データベースなら [www.benridane.jp](http://www.benridane.jp)

天気データベース情報満載のサイトを人気順に一括表示！

マニュアル作成にはコレ [www.softsimulator.jp](http://www.softsimulator.jp)

国内150社以上に導入されている マニュアル自動作成ツール

投稿日 2007-11-14 [コバトンハウス](#) | [リンク用URL](#)

2007-11-13

## 埼玉県庁コバトンハウス顛末記1

11月14日は埼玉県民の日。

県庁が一日開放される日です。

今年はその中で「子育て広場」を一日限定で県庁内で開催することになり、その運営をもくれんハウス(NPO法人わこう子育てネットワーク)が引き受ける事になりました。

で、その前日の準備。

古い由緒ある建物の普通の会議室を一日だけ大改造！



投稿日 2007-11-13 [コバトンハウス](#) | [リンク用URL](#) | [コメント](#)  
(1)



## 「NPO法人子育てコンビニ」の活動について(事例報告 その3)

研究協力者 熊井利廣 (杏林大学保健学部准教授)

### 要旨

地域の子育て機能向上の要件のひとつとして、市民、とくに子育て中の親に、保健、福祉の各専門機関の存在や機能、ネットワークの役割などをわかりやすく周知することが重要である。

東京都三鷹市では、子育て中の親との協働という手法をとり、市のホームページ上に子育てに関するポータルサイトを設置した。親たちは、NPO法人子育てコンビニを発足させ、ホームページ作りを業務として受託している。

ホームページは、離乳食のレシピなど身近な情報のほか保健福祉に関わる専門機関の情報提供も行っているが、単なる紹介ではなく親自身の取材レポートや体験談を中心とするなど、わかりやすいものになっており、多くの市民がホームページ上で、保健福祉の専門機関の機能、ネットワークの姿を見ることができている。

これは、NPO法人子育てコンビニのメンバーが、自分の子育て経験を大事にし、かつ、子育てしている親がどのような不安を持ったり、何を望んだりするかを考えて、企画、編集を行っているためと考えられる。

こうした特徴をもつホームページづくりは、子育て中の母親が参画することによって可能となったものであり、住民と行政との協働のひとつの姿を見ることができる。

### I. はじめに

地域の住民が参画することによって、保健福祉の協働による子育て機能の向上や普及がより進んでいく。このことを事例をもとに述べるのが、今回の報告の本旨である。

これまで2年間にわたって、東京都三鷹市を拠点とするNPO法人子育てコンビニの活動、及び同法人が作成するホームページに関し報告してきた。

最終年にあたって、まず2年間の報告を振り返る。そして今回はとくに保健・福祉及びその連携がホームページ上でどのよう

な形で表れているかをみたく、住民の参画が果たす役割や意義を検討したい。

#### 1. 17年度報告 ～三鷹市ホームページとNPO法人子育てコンビニ～

平成17年度には、三鷹市の子育てに関するホームページである「みたか子育てねっと」、及びそのなかの地域・民間情報を提供するサイト「子育てコンビニ」の概要、そしてその制作を行っている「NPO法人子育てコンビニ」の活動状況を報告した。

概要は以下のとおりである。

三鷹市は、市のホームページのなかの「み

たか子育てねっと」の作成を、市の第3セクターである株式会社まちづくり三鷹に委託している。株式会社まちづくり三鷹では、「みたか子育てねっと」の一部分（地域・民間情報を提供するサイトである「子育てコンビニ」）の編集・企画など一連の制作業務をNPO法人子育てコンビニに委託している。

ホームページ「子育てコンビニ」は、離乳食のつくりかたなど子育て中の親に直接役立つものから、保健福祉に関わる専門機関の紹介まで幅広く情報提供している。専門機関や三鷹市が主管する子育て支援事業に関しては、単なる紹介ではなく、NPO法人子育てコンビニのメンバー（子育て中の親）の取材レポートや体験談が中心である。

ホームページ「子育てコンビニ」を開設するにあたって、当初三鷹市と株式会社まちづくり三鷹は、市の広報誌やチラシ等で市民に対して広く参加を呼びかけた。子育て中の専業主婦を中心に市民約50人がボランティアとして参加した。株式会社まちづくり三鷹では取材や編集の仕方など基本的なことから、のちには特定非営利法人の発足まで援助を行った。現在、NPO法人子育てコンビニは、ホームページ「子育てコンビニ」の制作だけでなく、『お出かけマップ』作成（三鷹市からの受託）をはじめ数多くの事業を行っている。最近では、出産した母親のインタビューを撮影したドキュメンタリー映画の製作に取り組んでいる。

## 2. 18年度報告 ～子育て中の専業主婦ならではのホームページづくり～

平成18年度には、NPO法人子育てコン

ビニによるワークショップや編集会議など、ホームページの制作過程を報告した。

概要は以下のとおりである。

ホームページ「子育てコンビニ」は基本的に毎月更新される。その内容は月1回開催される「みんなでつくろう！子育てコンビニ」と名付けられたワークショップと編集会議を経て制作されていく。

NPO法人子育てコンビニは、「みんなでつくろう！子育てコンビニ」について、『みたか子育てコンビニ編集部日記ブログ』で、「子育てコンビニ製作のワークショップでもありますが、実は、子育て中のママたちが、子ども連れで集まって気軽におしゃべりできるサロンのようなスタイルになるように企画されています。/2005.11.5」と説明しているように、市内の施設を借り、子育て中の親が子ども連れで自由に参加できるように工夫されている。ここでの話題が、多くは翌月以降の「子育てコンビニ」のネタとなる。例えば参加者のなかで“子どもの肌の乾燥対策”が話題になれば、編集会議で議論され、翌々月にはホームページでは『気になる冬のカサカサお肌、うちの対策』という特集が組まれる。

編集会議は、NPO法人子育てコンビニのメンバーに、株式会社まちづくり三鷹の担当者、児童福祉を専門とする大学教員が加わる。子育てコンビニのメンバーが司会進行を行う。また、企画に関する話し合い、決定、取材や原稿の進行状況の確認など、編集会議は子育てコンビニメンバーが中心となって進めている。

このように市の業務の受託とはいえ市側の単なる下請けではなく、あくまでも子育て中の母親たちが中心となって企画、取材、

編集を行っている。また、ホームページの役割や意義などについてメンバー自身がそれぞれに考えを持ちながら制作にあたっている。さらに、市の子育て支援のための施策や事業に関する情報も「利用者の目線」で発信している。そして、こうしたことは「子育て中の自分だからこそ」できるものであり、「他の多くの子育て家庭の役に立つ」ことを「うれしい」と感じている。

子育て中の親にとってはホームページを通じて得られるのは、地域の子育て情報だけではない。NPO法人子育てコンビニの多彩な活動に接し、子育てしながらも社会に関わることができることを知ることができる。

## Ⅱ. ホームページ「子育てコンビニ」に表れる保健・福祉の連携(ネットワーク)

地域の子育て機能を向上していくためには、市民、とくに子育て中の親に、保健、福祉の各専門機関の存在、ネットワークの役割などをわかりやすく周知することが重要である。そのためには格段の工夫が求められる。

ホームページ「子育てコンビニ」は市のホームページだが、制作をNPO法人子育てコンビニ、すなわち子育て中の親自身がつくることによって、市民に必要な情報が市民、言い換えれば子育て中の親に、より親しみやすい形で提供できていると考えられる。

ここでは、ホームページ「子育てコンビニ」のうち、保健、福祉、及び連携(ネットワーク)に関する記事を検討し、考察したい。

### 1. 三鷹市の保健・福祉の専門機関と連携(ネットワーク)

まず、三鷹市における保健・福祉の連携の現況をおさえておきたい。

三鷹市では子ども家庭支援センターを中核機関として保健・福祉などの関係機関の連携が図られている。子ども家庭支援センターの他、北野ハピネスセンター、児童相談所、保健センター、保育所、児童館、教育委員会、学校、幼稚園、大学病院、児童養護施設等、子どもと家庭に関わる機関による定期的な情報交換をはじめ、虐待が疑われる事例などが把握された場合には具体的支援活動が行われるための仕組みが作られている。

子ども家庭支援センターが設置された平成10年度に、子ども家庭支援センターが支援した児童虐待の事例は3件だったが、平成18年度は132件だった。ネットワークの充実とともに、児童虐待の発見数が増加したと考えられる。

現在、ネットワークは要保護児童対策地域協議会(名称は、三鷹市子ども家庭支援ネットワーク)として機能している(図1)。

### 2. ホームページ「子育てコンビニ」のコンテンツ

ホームページ「子育てコンビニ」の主なコンテンツは以下のようなものである(図2トップページ)。

- ① 特集(毎月なんらかの話題に焦点を当て特集としている。2007年11月号は児童虐待防止を特集した。12月はクリスマス特集。)
- ② おでかけ(トイレ情報、子連れに優し

いお店情報、三鷹の公園や遊びのスポットなど、子連れで出かけるのに便利な取材レポート。2007年12月は「図書館に行こう！」

- ③ コラム（読者からの投稿や子育てにまつわるエッセイ）
- ④ 子育て支援（保育園の地域開放事業の参加レポートや、幼稚園・保育園などの施設情報など）
- ⑤ そうだん（三鷹近辺にある相談機関等の紹介と、相談の体験談の紹介。児童相談所、子ども家庭支援センターなど専門機関を取材している。）
- ⑥ てづくり（料理、工作、編み物、裁縫、離乳食レシピなど）
- ⑦ けんこう（助産師への相談コーナー、歯科医・眼科医のコラムなど。12月の「助産師さんへの相談コーナー」は「第99回 授乳中の乳製品の摂取について」）
- ⑧ あそまな（「あそまな」とは、遊びと学び。おすすめおもちゃや絵本、体操（動画）の紹介。北野ハピネスセンターのてづくりおもちゃなど）
- ⑨ 子育て支援カレンダー（保育所、児童館、子ども家庭支援センターなど、子育て支援事業・施設の行事予定などの紹介）

### 3. 各コンテンツで紹介される保健・福祉の専門機関とネットワーク

上記①から⑨までの中で、とくに保健、福祉分野に関するものは、「④子育て支援」「⑤そうだん」「⑦けんこう」「⑨子育て支援カレンダー」のコンテンツである。その他、「②おでかけ」では児童館が紹介されて

いる。また、「⑧あそまな」には、北野ハピネスセンター（障害児療育センター）の相談員による手作りおもちゃのコーナーがあり、「てづくりおもちゃ」を通して北野ハピネスセンターの紹介がなされている。言いかえれば発達に課題がある子どものための機関として、市内には北野ハピネスセンターが存在していることが伝えられている。

また、「①特集」では、2007年11月に児童虐待防止に関して特集するなど、時機に応じて保健・福祉に関するテーマを扱っている。

このようにコンテンツのあちこちに、三鷹市の保健、福祉が登場する。

ここで「④子育て支援」「⑤そうだん」「⑦けんこう」「⑨子育て支援カレンダー」に着目して、その内容を見てみたい。

#### (1)「子育て支援」

「④子育て支援」は、市内の保育所、幼稚園の施設情報、保育園の地域開放事業の参加レポートである。NPO法人子育てコンビニのメンバーが、実際に子ども連れで参加したうえでのレポートが中心となっている。

一例として、図3に「助産師さんと一緒に赤ちゃんとお遊ぼう 参加レポート」を示した。三鷹市助産師会が主催する活動に実際に参加したNPO法人子育てコンビニのメンバーによるもので、受付から終了まで具体的でわかりやすいレポートになっている。

例えば『受付』では、「続々と赤ちゃんが集まってきます。最初に受付で名前や住所を記入して、シールにも名前を書いてママと赤ちゃんにも貼ります。住所を書くとき

にも「赤ちゃんを抱いてあげようか？」と声をかけていただき安心です。」と書かれている。とかく初めての場所を訪れるのは敷居が高いと感じがちだが、このような参加レポートをあらかじめ一読すると、安心を感じることができるのではないだろうか。

## (2)「そうだん」

「⑤そうだん」のページでは、第1回目に子ども家庭支援センターを掲載したのをはじめ、保健センターや教育センター、児童相談所など、9か所の専門機関をNPO法人子育てコンビニのメンバーが取材、レポートしている。写真も掲載し、わかりやすい文章で「相談をしてみましよう」と呼びかけていることが特徴である。

第10回目では、児童相談所や子ども家庭支援センターなど行政機関・施設を中心に構成されている「三鷹市子ども家庭支援ネットワーク」を次のように紹介している。

”子育ての悩み相談しましよう”のコーナーで、これまで三鷹市内の主な相談先を紹介してきました。実は、これらの相談先は全部一つのネットワークとして連携しているのです。

[中略]

例えば虐待の問題が起きたとき、虐待をしている親についての対応で良いのかというと、そうではなく、その家庭の夫婦の問題、虐待を受けている子どもの心のケア、場合によっては保護なども発生してきます。兄弟姉妹がいれば、その子どもたちのこともかかわってくるのです。

[中略]

とにかく家庭内に問題が起きたとき、市内にある色々な相談機関のどこかにまずは相談してみましよう。そのうしろには心強い子ども家庭支援ネットワークがありますので、どんな深刻な問題でも、必ず希望を持てる良い解決方法が見つかるはずですよ。自分達だけで解決しようとしなくて、あきらめないでまずは身近なところに相談してみましよう。(下線部筆者)

このようにネットワークについて、その概要と意義が語られている。取材したメンバー自身の言葉によって、「相談してみましよう」と呼び掛けているのが特徴である。

親しみやすく、より身近に感じられる効果があると考えられる。

## (3)「けんこう」「カレンダー」

「⑦けんこう」には、「助産師さんにしつもん！」というタイトルのページがある。三鷹市保健センターで母親学級を担当する助産師が、メールで寄せられた質問にweb上で回答するコーナーで、連載は100回を超えた。バックナンバーは「赤ちゃんの健康・生活・お世話について」「離乳食」など7種類のカテゴリーに分類され見やすく整理されている(図4)。各回のタイトルをクリックすると回答を閲覧できる。

また保健センターの関係では、「母親学級はこんなところ 保健センターの母親学級におじゃましました」と題して、三鷹市保健センターで行われる母親学級(全2回)の見学レポートも掲載されている(図5)。「グループで助け合いながらの練習は楽しそう。」「助産師さんがグループの間を回る

ので、手をあげて質問するのがためらわれることも気軽に質問できます。」など、母親の目線に立った紹介になっている。

「⑨子育て支援カレンダー」は、保育所、児童館、子ども家庭支援センターなど、子育て支援事業・施設の行事予定などが一目のもとに見ることができるようになっている。

#### (4) 児童虐待防止推進月間

その他、2007年11月には、児童虐待防止推進月間にちなんで、トップページに「きこえるよ 耳をすませば 心のさけび 今月は児童虐待防止推進月間」を掲げ、これまで「⑤そうだん」に掲載してきた子ども家庭支援センター、児童相談所、子ども家庭支援ネットワークのページに飛ぶことができるようにした。また、オレンジリボン運動公式サイト、NPO法人児童虐待防止全国ネットネットワーク、厚生労働省、東京都児童相談センターの各ホームページへのリンクを行った(図6)。

### Ⅲ. ホームページ「子育てコンビニ」の効果

#### 1. 自分の子育て経験を大事にする

以上見てきたように、ホームページ「子育てコンビニ」では、三鷹市の保健、福祉に関わる機関及びその連携(ネットワーク)について、子育て中の親自身の言葉で説明されている。

このことは、どのような効果をもたらすだろうか。まず、NPO法人子育てコンビニのメンバー自身はどう考えているのか。2007年8月から10月にかけて、4人のホ

ームページ編集委員に、NPO法人子育てコンビニの活動やホームページ全般に関して聞き取りを行ったが、次のような意見が聞かれた。

(「そうだん」コーナーの役割について)

「相談に行くとなると、怒られるんじゃないかとか自分がダメだから相談に行くとか思う人もいるけれど、そうじゃなくて、困ったことがあれば何でも聞いていいし、これだけ相談先があるからどこか自分に合うところがあれば行ったほうがいい、というメッセージを送っていると思う。」

「相談機関に実際に行ってみて、こんなところでしたという話や、実際に相談した人の体験談は、単なる紹介にとどまらないでもう一步踏み込んだ感じがする。」

「困ったときに、まずホームページを見てどんなところか分かってからのほうが相談しやすいと思う。」

「児童相談所というのはヘビーな感じだけど、行ってみたらそうでもなかった。そういうことを皆さんに知ってもらいたい。」

「目線が上から、あなたに紹介してあげます、ではなくて、同じ目線で作られているところがいいのではないかな。」

これらの発言は、自分の子育て経験を大事にし、かつ、子育てしている親がどのような不安を持ったり、何を望んだりするかに思いを寄せることから出ていると考えられる。

ホームページ開設にあたって、株式会社まちづくり三鷹では「子育てを親だけの問

題とせず、一般市民へと広げ、地域社会における子育てへの理解を深めるために、子育て中の保護者が子育てに関する情報を入手しやすい環境、地域社会で情報を共有化できる環境を構築する」ことをその目的とし、手段として「市民有志を募り、子育てに関する情報の作成を行ってもらう」ことを挙げていた（財団法人ニューメディア開発協会『先進的情報技術活用型福祉支援推進 介護・子育ての分野における革新的なサービス提供に資するIT活用事業報告書』2002）。これは基本的な枠組みであり、株式会社まちづくり三鷹が内容について具体的な指示を出すのではなく、NPO法人子育てコンビニのメンバーが中心となって進める編集会議において、企画に関する話し合い、決定がなされてきた。

相談機関を自分たち自身でひとつひとつ訪ね取材し、そのレポートを掲載することもそのなかで企画された。そして、NPO法人子育てコンビニのメンバーは、先に述べたように、自分の子育て経験を大事にし、かつ、子育てしている親がどのような不安を持ったり、何を望んだりするかに思いを寄せている。そのために、保健、福祉各機関の紹介も、幅広く、わかりやすく、親の立場に沿ったものになっていると考えられる。

## 2. 子育て支援を身近なものとして実感

このような特徴を有するホームページ「子育てコンビニ」がどのような効果をもつか、その一端を示唆する、次のような事例が見られた。

2007年8月、北野ハピネスセンターに関わるやりとりが『子育てねっと』内の「掲

示板」に書き込まれた。

子どもの言葉の遅れを心配する母親からの投稿が書き込まれたが、その日のうちに、別の母親が北野ハピネスセンターを紹介するコメントを書き込んだ。自分の子どもにも言葉の遅れがありセンターへ定期的に通っているとのことで、「もんもんとしているより、相談して、療育を受けられてよかった。療育と言ってもプレ幼稚園みたいな、私にとってもほっとする場ですよ。」と自分の経験をもとにアドバイスを書き込んだ。

最初の投稿者は、センターの存在は知っているものの相談する決心がつかなかったようで、経験者のアドバイスに対して「迷っていたのですが電話してみようと思います。ありがとうございました。」と返信した。

多くの場合、専門機関の存在を知っても、だからといってすぐに相談できるものではない。「子育てコンビニ」には、北野ハピネスセンターの紹介記事が掲載されている。ここで使用されている職員手製のおもちゃは、「あそまな」のページでも紹介されている。このようにいくつにも重なるように情報がある。さらに「掲示板」に掲載した自分の悩みを読んでアドバイスを書き込んでくれる人に出会う。そして決心する。こうした経過だったと言えるだろう。

そして、重要なのは、多くの市民が、このような掲示板のやりとり、取材レポート、手作りおもちゃの記事などを見て、子どもの言葉の遅れが心配のときには市内にはこうした機関があると、リアルに知ることができることである。

その他、三鷹市の子ども家庭支援ネットワークの構成機関の機能や役割が、子育て中の親自身の言葉でわかりやすく説明され

ていること、また、保健、福祉に関わる機関の連携（ネットワーク）の意義については、子育て中の親自身の言葉で説明されることは、ホームページを閲覧する親にとってみれば、三鷹市の子育て支援を身近なものとして実感できることである。

「みたか子育てねっと」へのアクセス数は、開設から1年後の2002年10月には4,938件だったものが、2003年10月11,941件、2004年10月24,409件、2005年10月34,658件、2006年10月42,721件、2007年7月には42,844件となった。毎年増加し、現在では、1か月当たり4万件を超えている。インターネットの性格上それらがすべて三鷹市民とは限らないが、多くの市民がホームページ上で、保健福祉の専門機関の機能、連携（ネットワーク）の姿をリアルに見ることができる意義は大きい。

そして子育て中の親自身が参画しているからこそ、こうしたホームページが実現できていると考えられる。

#### IV. まとめ

1. 東京都三鷹市では、子育て中の親との協働という手法をとり、市のホームページ上に子育てに関するポータルサイトを設置した。親たちは、NPO法人を発足させ、ホームページ作りを業務として受託している。業務の受託とはいえ市側の単なる下請けではなく、ホームページの役割や意義などについて、作成スタッフ自身がそれぞれに考えを持って企画、作成にあたっている。
2. ホームページは、離乳食のつくりかたなど子育て中の親に直接役立つものから、保健福祉に関わる専門機関の紹介まで幅広

く情報提供している。専門機関や三鷹市が主管する子育て支援事業に関しても、単なる紹介ではなく、NPO法人子育てコンビニのメンバー（子育て中の親）の取材レポートや体験談が中心である。

3. NPO法人子育てコンビニのメンバーは、自分の子育て経験を大事にし、かつ、子育てしている親がどのような不安を持ったり、何を望んだりするかに思いを寄せている。そのために、保健、福祉各機関の紹介も、幅広く、わかりやすく、親の立場に沿ったものになっている。

4. 地域の子育て機能を向上していくためには、市民、とくに子育て中の親に、保健、福祉の各専門機関の存在、ネットワークの役割などをわかりやすく周知することが重要であるが、多くの市民がホームページ上で、保健福祉の専門機関の機能、連携（ネットワーク）の姿をリアルに見ることができている。

5. 市民にとって、ホームページを閲覧することを通して、NPO法人子育てコンビニの多様な活動ぶりに触れ、そのことによって子育てしながらも社会に関わることができることや子育てすることの楽しさを知ることができている。

6. こうした特徴をもつホームページづくりは、子育て中の母親が参画することによって可能となったものであり、住民と行政との協働のひとつの姿を見ることができる。

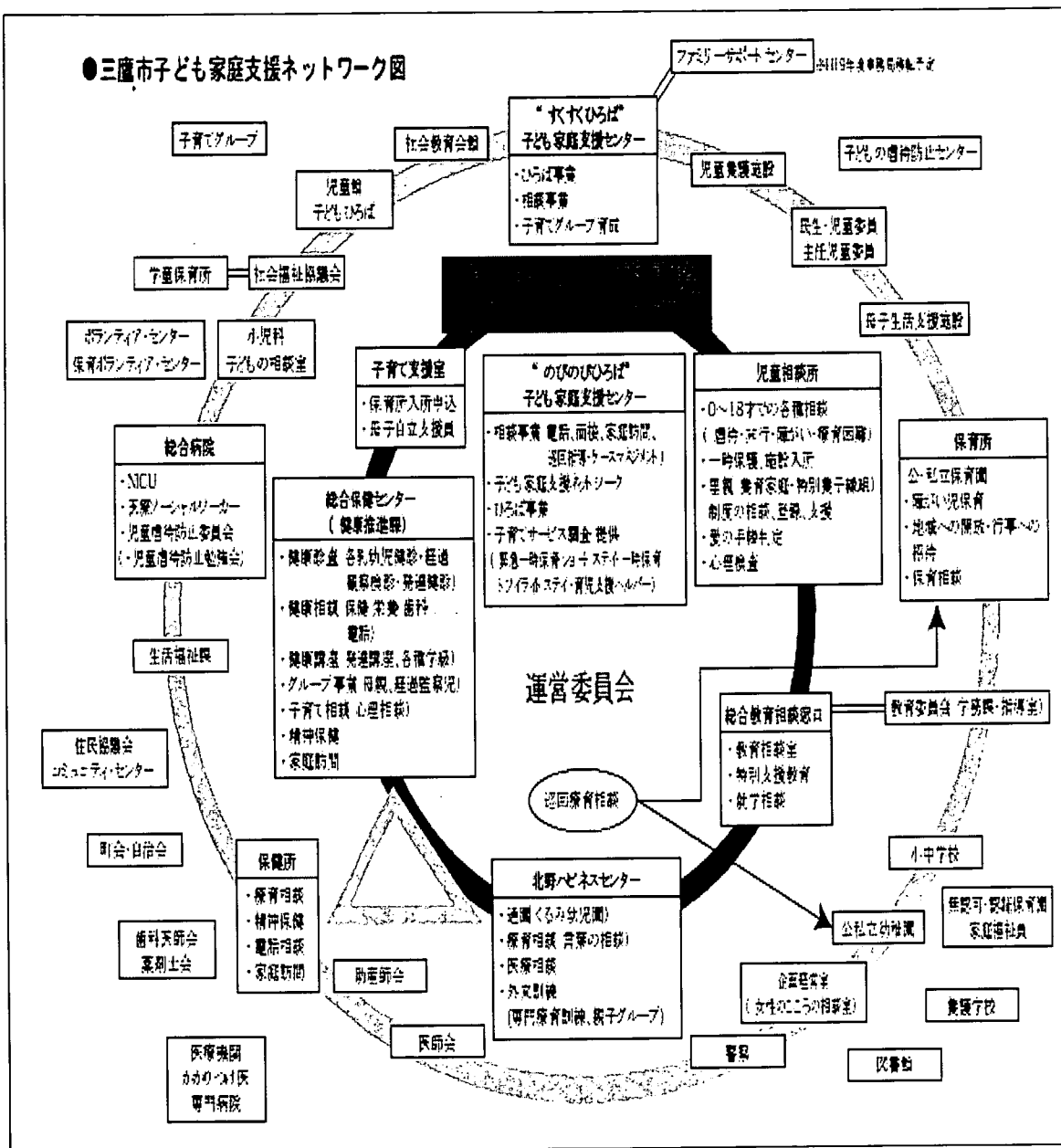
7. 女性の高学歴化・社会進出がすすんだ現在、母親にとって子育ては自分を制約するものとしてとらえられやすい。子育てと自己実現が相反するものと感じられ、子育ての不安・負担感につながりやすい状況のなかに多くの母親は置かれている。



専業主婦かフルタイム就労かの二者択一ではなく、社会へのかかわりを持ちながら同時に子育ての喜びを感じられるような幅広い支援が必要と考えられる。そこには市民と行政の協働、子育ての当事者である親の参画を進める仕組みが必要である。

謝辞 本稿作成にあたっては、NPO法人子育てコンビニのメンバーをはじめ、株式会社まちづくり三鷹、三鷹市健康福祉部子育て支援室にご協力いただきました。記して感謝の意を表します。

< 図 1 >



出所：三鷹市資料



2008年も  
どうぞよろしくお願ひいたします！

初詣特集はコチラ！

子育てコンビニからの  
お知らせ

現在のお知らせはありません。



トイレ情報、子連れに優しいお店情報、三鷹の公園や遊びのスポットなど、三鷹から子連れでおでかけするのに便利な情報を取材しました。おけいこ情報もココ！



皆さんからの投稿やいろいろな方からの子育てにまつわる楽しいエッセイ満載！

12/26

パパとママのリレーエッセイ > 第59回みやじゅちさん



三鷹とその周辺の託児施設の取材レポート、保育園の地域開放の参加レポートや、幼稚園・保育園などの施設情報。  
そのほか、三鷹の子育て自主グループの紹介、ママのストレス対策もこちらです！



三鷹近辺にある子育ての悩み、家庭の悩み、一人で悩んでないで気軽に相談しませんか？相談できる場所の紹介と、に相談に行った方の体験談の紹介です。

1/7

nanaの一口エッセイ > 第20回 お父さんたちよろしく！  
「力を抜いて、ゆったりと・・・」



お料理、ママの工作、子どもの工作、編み物、裁縫・・・手作りのことはこちら！山下味希恵先生「ママのまほうで♪」もこちらです！



助産師さんへの相談コーナー、歯科医・眼科医の先生のコラム、子どもに優しい民間療法などの、健康情報がいっぱい

1/7

ママのまほうで♪ > ☆魔法その7☆ 可愛い ねずみ年

1/7

助産師さんに質問！ > 1歳児の噛み癖について

12/26

助産師さんに質問！ > 2ヶ月児のミルクの量について

12/26

助産師さんに質問！ > 産後の2ヶ月の母乳分泌について



「あそまな」は遊びと学び。「知的刺激を共有する」という親子の関わり方も提案していきます！  
おすすめおもちゃや絵本、てづくりおもちゃの紹介も。

子育て支援施設カレンダー 児童館、保育園の地域解放など、市内の子育て支援施設のイベント情報です。

12/26

更新しました！



■子育てひろば(青木橋)  
■みんなであつくり！子育てコンビニ  
■産院カレンデュ

■サイトマップ  
■リンク  
■CAST

■バックナンバー  
■みたみ子育てわっふ  
■子育て支援施設カレンデュ

## 助産師と一緒に赤ちゃんと遊びましょう

### 参加レポート

三鷹市助産師会さんが主催されている「助産師と一緒に赤ちゃんと遊びましょう」という会をご存知ですか？

これはお母さん達に出産・分娩・育児に関する専門知識や実際のケアなどを広く提供する場として、2000年4月から三鷹市の助産師会のみなさんが自主グループ活動として行われているものです。

生後1ヶ月から1歳2～3ヶ月の赤ちゃんたちとお母さんがたくさん！！お母さん同士の交流はもちろん、助産師さんに気軽に相談もできるいい機会です。

2004年12月20日のこの会に参加されたちゅあんさんが、会の様子をのレポートしてくださいました～！

三鷹市助産師会主催の「助産師さんと一緒に赤ちゃんと遊びましょう」に行ってきました。生後1ヶ月から1歳2.3ヶ月の赤ちゃん(走り回る前くらいまでだそうです)とママを対象に、三鷹市役所の裏の福祉会館で毎月行われています。私は、娘が2ヶ月のときからほぼ毎回参加してきました。初参加のときに知り合った同じ月齢の赤ちゃんを持つママたちとはお付き合いが続いていて、お互いの子供の成長を喜びあっているし、行くたびにお友達も増えるし、なにしろ大勢の赤ちゃんが集まってにぎやかで楽しいので、とても好きな会です。まだ行ったことがない方にはぜひおすすめしたいので、2004年最後の会をレポートしてみます！赤ちゃん和妈妈だけでなく、パパさんたちにも、また妊婦さんたちにもたまに会えますよ。

#### \* 受付 \*



続々と赤ちゃんが集まってきます。最初に受付で名前や住所を記入して、シールにも名前を書いてママと赤ちゃんにはります。住所を書くときにも「赤ちゃん抱いてあげようか？」と声をかけていただき安心です。

#### \* 手遊び \*

まずは、「げんこつやまのためきさん」をみんなで歌います。そのあといろいろな手遊びを教わりながら、みんなで歌って遊びます。今日は、「ゲーチョキバで～」や「一匹の野ねずみが～」や「パンパンパン屋さんでお買い物～」などを歌いました。



#### \* ママの体操 \*

普段背中が丸まっているママたちは、うーんと背伸びをすれば、もっと元気に